



夏祭り、皆様いかがでしたか？
今年は東日本大震災という大きな災害がありました。震災後の「ガソリンスタンドの行列」、「食材の買占め」「計画停電」等、被災していない地域で起こった社会現象は、震災の影響を強く感じ記憶にも新しいところです。

「今夏の計画停電」を気にしながら、ケアポート・田谷では例年通り4月から夏祭りの準備を始めました。計画停電の実施は夏にならなければわからないことでしたが、停電時の対策、夏祭りの中止も考えて準備を行ってきました。

思いのほか、早い梅雨明けで6月下旬は猛暑でどうなるかと思いましたが、7月に入ったら涼しくなり…。しかし、しっかり夏はやってきて夏らしい陽気となりました。暑い日が続きましたが、計画停電は実施に至らず夏祭りの開催を決定しました。

夏祭りでは、今年も多くのご家族様と地域の皆様にご来場頂けました。ありがとうございました。各屋台も盛況で席も足りないくらいでした。

屋台のメニューではフランクフルトを新しく取り入れてみましたがいかがでしたでしょうか。館内に設置した輪投げコーナーでは職員手作りのプラバンが子供たちに人気だったようです。「記念に1枚」の写真コーナーもとても人気でした。最後は雨となってしまいましたが花火も無事にできてよかったです。

初めて中止も考えた今年の夏祭り。開催できたのが何よりよかったです。利用者の皆様が少しでも喜んでいてくれたら嬉しいです。

今年も夏祭りの運営にご協力頂きました栄区車椅子ダンス協会様・いでたち様ありがとうございました。又、利用者家族様のご協力もありました。皆様、ありがとうございました。



今回の夏祭りは、私にとってケアポート田谷での初めての夏祭りでした。準備段階においては3月に起きた東日本大震災や、それに伴う計画停電の影響などにより、開催事態が危ぶまれましたが、年間行事において御利用者が一番楽しみにしているプログラムでもあります。実行委員会では早い段階から開催する方向で準備を進めていました。



当日は真夏らしくとても暑い天気でした。少し雨も降りましたが大きな問題が起きたことなく開催できました。普段食事が進まない方が屋台の物を喜んで召し上がっており、御家族と一緒に楽しまれている様子を見て、無事にこの日を迎えることができ本当に良かったと思いました。来年は御利用者の笑顔がもっと見れるように、楽しみ溢れるより良い夏祭りが開催出来ればと思います。

2F 介護 橋

今年の夏祭りは3月11日に起きた東日本大震災、またその後に起きた計画停電があり、開催自体が行えるのか判らない状態から、企画を行っていくという状態でした。

開催日が近づくにつれ、また計画停電があるかもしれないという情報が流れたり、各地方で大きな地震があつた

り、ゲリラ豪雨が起つたりと、

当日にならないと何が起るか判らない状態でしたが、夏祭り当日は、晴天でとても暑い日となりました。利用者様、御家族と暑い中ではありましたが、とても楽しめていたと思われます。最後の



花火の際に多少雨がぱらつきましたが、夏の夜空を綺麗に彩ってくれました。

気の早い話ですが、来年の夏祭りを楽しみに待っていて下さい。

3F 介護



デイケア御利用者にとって、今年はより雰囲気を味わえる夏祭りになったと思います。と申しますのも、今回は特別な場所を提供する事が出来ました。例年は普段御利用頂いている、デイフロアが食事をするためのスペースでしたが、お祭りの会場から遠く、慣れ親しんだ環境とはいえ、せっかくの祭りの賑わいをあまり感じることが出来ない状況でした。今年は、普段会議室として使用しているお祭りの会場に最も近い場所が食事スペースとなり、窓から屋台などが見え、賑やかな会場の雰囲



気をより味わって頂けたものと思います。

また、イベントプログラムとして、スイカ割りと盆踊りを追加しました。スイカ割りでは、スイカを打ち付けるたびに歓声が上がり、皆様の御協力のもと見事に真っ二つに割ることが出来ました。ちなみにスイカに止めをさしたのは、女性の御利用者

です。盆踊りは職員だけでは人数が少なく、盛上がりにやや欠ける状況だったのですが、利用者の方々が一緒に踊って頂いたことで雰囲気が一変。とても楽しむことが出来ました。



食べ物については、どうもろこしが特に美味しかつたと評判でした。来年も提供できるよう反省会で報告したいと思っています。

1時間半程度の時間を参加時間としましたが、スケジュールに少し余裕がない状況になってしまいました。利用者様にはどのような時間に感じられたでしょうか。私個人の感想としては、思い出に残るとても楽しい夏祭りでした。

来年も今年の反省点を生かし、より良い夏祭りにしていければと思います。



利用者様、御家族様、暑い中御参加いただきましてありがとうございました。

通所リハ介護 上野



災害支援ボランティア報告

災害支援ボランティア報告

去る5月30日から6月4日の一週間、宮城県作業療法士協会の要請を受けて災害支援ボランティアに行ってまいりました。3月11日から3ヶ月

近くが経ち、当初心配されていた医療品や食料品などの物資不足は解消され、仙台駅周辺は震災前の活気を取り戻していました。しかし、一時間ほど車を走らせた石巻市や陸前高田市は、横倒しになった民家や、壁の剥がれ落ちた倉庫など、まだ生々しい傷跡をそのまま残していました。

私の派遣先は、石巻港で津波の被害に遭われた20数名が避難されている体育館でした。ほとんどが60歳以上の高齢者で、脳卒中後遺症などの障害のある方たちも複数含まれていました。若く健康な人々は新たな生活の場を見つけて避難所を去つて行きましたが、高齢者や障害のある方たちは避難所での生活を余儀なくされていました。体育館の一角が食堂になっていて、食事の配給時間になるとダンボールで間仕切りされた6畳ほどのスペースから人々が出て来て、終わるとまた戻るというのが日課になっていました。



私の避難所での活動は、生活支援を目的とした機能訓練ならびに環境調整でした。避難所は既に被災者の方たちの生活の場になっていましたが、もともと運動を目的とした施設であって、生活するための構造にはなっていません。高齢者や障害者の方たちにとっては不便であると同時に危険であり、自立の妨げにもなっていました。お風呂やトイレに介助バーを設置し、個々の身体状況に合わせてどのような手順で行うかを指導することもリハビリ専門職の役割でした。また、被災者の方たちのほとんどは運動不足で会話もない状態でしたので、心身の健康維持を目的に体操やレクリエーションを行ないました。



悲惨な状況を搔い潜って来た方たちばかりなので、安易な問い合わせはしないように心がけましたが、一緒に身体を動かしたり声を出したりするうちに心が打ち解け、不安な思いや懐かしい思い出を語って下さるようになりました。車椅子の女性は、すぐ後ろまで迫って来た津波の恐怖体験を臨場感たっぷりに話されました。自分の店を流されてしまった果物屋のご主人は、美味しい果物の選び方や、農薬の危険性について教えて下さいました。

避難所内には様々な団体がボランティアとして参加していて、気づいたことや変更点は他のスタッフに相談したり報告したりするなどして情報共有をはかっていました。避難所から仮設住宅へ移行していく時期でもあるので、仮設住宅での生活を想定した具体的な訓練や必要な福祉機器の検討など、今後もやるべきことは多いと思われます。一週間という短い期間でしたが、たくさんの出会いや経験をさせていただきました。失ったものは取り戻せませんが、被災者の方たちの生活が少しでも回復できるように心から願っています。石巻は海産物で有名な土地ですが、何人かのお年寄りが地元産のワカメを自慢した後、「また食べたいなあ」としみじみ話されていたのを思い出します。次の行く機会には、ぜひ石巻産のワカメをお土産に持つて訪問したいと考えています。